

(宝達志水町地域公共交通協議会 事務局作成)

と き 令和8年9月8日(火)13:30~15:00

ところ さくらドーム21 2F 視聴覚室

令和 8 年度第2回宝達志水町地域公共交通協議会 議事要旨

1 開 会 司会 (事務局:宝達志水町企画情報課 南谷課長)により 定刻どおり開会した。

○出席委員の確認

当日の欠席者は、杉中委員、吉井委員、飯田委員、大村委員、十二委員、藤井委員、大橋委員の7名
(代理出席者はなし)。

委員総数 22 名中 15 名出席。協議会設置要綱の規定(2 分の1以上出席)により開催要件を満たすことを確認した。

2 金田会長 あいさつ

本日はお忙しい中、令和8年度第2回地域公共交通協議会にご出席いただきありがとうございます。

6月の本協議会においてご説明いたしました、宝達志水町次期5カ年の「地域公共交通計画」の策定に向け取組んでいる調査事業において、本年7月から8月にかけて実施いたしました「住民・利用者アンケート調査」の結果について、中間とりまとめとして報告をさせていただきます。

今回の調査では、回答者の約 6 割を 60 代から 90 代の高齢層が占め、数年以内の免許返納予定者を含めると約 2 割の方がすでに運転しない、あるいは返納予定であるという実態が改めて浮き彫りになるとともに、約3分の2の方が「将来の移動に不安を感じている」と回答されており、移動手段の確保は我が町における喫緊の課題であります。

こうした町民の皆様の切実な声に応えていく一方で、本日の協議会では、大変重い決断を伴う案件も審議していただくことになります。それが、議事案件第 1 号「南北シャトル便の廃止について」でございます。

南北シャトル便は、これまで町民の皆様の南北軸の移動を支えてまいりましたが、近年の利用実績は低調に推移し、令和 7 年度には 1 人あたりの町補助額が約 1 万 6600 円に上るなど、限られた財源の中で極めて費用対効果が低い状態が続いております。

苦渋の決断ではございますが、この路線を廃止し、今後は利用者から高い満足度を得ているデマンドタクシーへの統合・効率化を図る方針について、皆様にお諮りしたいと存じます。

ただ路線を廃止するだけとはならず、アンケート調査でも明確となりました様々な課題と要望について、交通弱者の移動手段が損なわれないよう、実効性のある代替交通の充実と利用促進のための周知・啓発が不可欠と考えております。

委員の皆様におかれましては、町民の将来の足をいかに守り持続可能な交通網を構築していくかと

いう観点から、本日も忌憚のないご意見と活発なご審議を賜りますようお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

司会：

協議会の副会長は、協議会設置要綱の規定に基づき、公立小松大学の高山純一教授が就任した。
会議後、委員の意見を踏まえて総評をいただく。
(以後、金田会長が議長となり進行)

金田会長：

それでは、審議に入ります。
まずは報告案件の事務局からの報告を求めます。

3 報告案件

(1)報告第1号 地域公共交通計画策定業務アンケート調査結果の概要について
(事務局 松本 から 資料番号1 により説明)

<質 疑>

高山副会長：

住民アンケートでは、回答者の6割が高齢者であったが、未成年の人も対象として把握すべきである。
次期地域公共交通計画を策定のためには調査内容として不十分である。

(事務局 松本)

今回のアンケート調査では、意見の偏りを防ぐため1世帯1枚とした。本アンケートが調査の全てではなく、若年層を含めた実態調査を、様々な主体を対象としたヒアリング等で把握していきたい。

小林委員：(石川運輸支局)

現状の把握は重要ですが、地域公共交通計画は5カ年であり、将来的に困る人も見ていく必要がある。免許返納後のこの町で安心して暮らせる具体像を示していく必要がある。バス、デマンド、(通常の)タクシーのベストミックスを考えて行くべきである。

(事務局 松本)

ご指摘を踏まえ、今後の調査・分析を進める。

4 議事案件

(1)議案第 1 号 南北シャトル便の廃止について

(事務局 南谷課長 から 資料番号2 により説明)

<質 疑>

吉田委員:(石川県交通政策課)

確認ですが、輸送力について「デマンド」に集中するということだが、対応は可能か。南北シャトル便の廃止はやむを得ないが、「デマンド」が廃止の受け皿となることの周知・啓発はどのように考えるか。

(事務局 南谷課長)

南北シャトル便の実績程度の輸送力は「デマンド」にて十分対応は可能と考える。

バス停の表示以外にも、あらゆるメディアを駆使して周知に努める。

小林委員:

南北シャトル便については、昨年の本協議会から、使い勝手が悪いことは聞いていた。

(廃止後の)住民の移動手段の確保をどうしていくのか。特に自家用車を使用できない方への手当を大切にすべき。

(事務局 南谷課長)

デマンドタクシーの利便性向上の検討も含め、代替手段の周知に努める。

○他の委員より発言・質疑がないことから、金田会長から「採決」の表明があり、
「異議なし」との発言により、議案第 1 号は決議された。

議案第 1 号の決議を受け、議案第 2 号の審議に入った。

(2)議案第 2 号 南北シャトル便の廃止に係る地域公共交通確保維持事業における 地域公共交通計画の変更について

(事務局 松本 から 資料番号3 により説明)

6 月の本協議会で承認されたばかりの、デマンドタクシーが国庫補助を受けるための地域公共交通計画を、今回の南北シャトル便の廃止に伴い変更するもの。(「宝達志水町地域公共交通計画」とは別物)

先に申請した同計画は、現時点で認定になっていないので、認定後の変更申請となるもの。主旨とし

ては、単純に「南北シャトル便の部分を削る」と言うものだが、本件は北陸信越運輸局と調整中であり、細かな修正は事務局にご一任いただきたい。

小林委員：

事業目標の箇所で、【参考】として令和 7 年度実績を記述している部分は削除する必要はない。

(事務局 松本)

ご指摘のとおり修文する。

金田会長：

他にご質問ございませんか。

○他に発言はなく、金田会長から「採決」の表明があり、
「異議なし」との発言により、議案第 2 号は決議された。

議事案件は以上で終了。

金田会長：

最後に、高山副会長から、総評をいただきたい。

高山副会長：

今年の TV 報道で2つの話題があり、①生活道路が 30km/h 規制になる。安全の担保となるもの。

そして、②地域の公共交通の確保に本気で取り組むようになってきた。金沢での「交通空白解消マッチングイベント」[\(※1\)](#) では、国土交通副大臣が来るなど、本気度が上がっている。

全国での交通空白地域は増えている。課題解決は市町の役割となる。住民の課題はあきらかであり、6割が高齢者となる一方、定住促進のため子供たちの課題をどうするのかを考える必要がある。

小中学校はスクールバスで登下校時に対応できるが、高校生ではどうかなのか。特に北陸では冬期の「雪」が課題となる。高校生の意見、保護者の意見を聞く必要がある。

南北シャトル便の廃止はやむを得ないが、実際にデマンド交通を利用してもらえるのか。

地域公共交通計画は 5 年間であり、高齢化の進展も考慮する必要がある。2 割の住民が移動制約を受けることは大きな課題である。本腰を入れて取り組んで行くべきである。

5 その他

(案件なし)

6 閉 会

金田会長：

委員の皆様には、長時間におよぶ審議をありがとうございました。

本日は、令和4年10月から運行してまいりました「南北シャトル便」を廃止するという、ご利用されておられた町民の皆様には、誠に申し訳ないことではありますが、デマンドタクシーの利便性の向上に取り組むことにより、これを補完して参りたいと考えております。

現在取り組んでいる、令和9年度からの新しい地域公共交通計画の策定するうえで、利便性の確保と持続性を兼ねた新しい交通システムの導入を図るため、今後とも調査・研究を重ねて参りたいと考えております。

引き続きご意見を賜れば幸いです。皆さまには長時間におよびご審議いただき誠にありがとうございました。

これをもちまして令和 8 年度第2回宝達志水町地域公共交通協議会を閉会いたします。

参考

※1 国土交通省(『交通空白』解消・官民連携プラットフォーム)が、「交通空白」の解消に向け、自治体や交通事業者等と様々な技術・ノウハウを持つ民間企業とのマッチングや連携・協働体制の構築を進めており、全国数都市にて、お困りごとを抱える自治体や交通事業者、パートナー企業などのマッチングを図るべくイベントを開催しているもの。本年 8 月、石川県金沢市にて対面形式のマッチング・イベントが開催された。[\(参考 Web ページ\)](#)